

平成30年度 業務棚卸評価シート

No.	16	担当部課名称	企画部秘書広報課
事務事業名	市ホームページ等管理運営事業		
見直しのタイトル	ホームページの更新について		
添付資料 有無	無		

1 現状における課題

- ・ホームページ作成ソフト「TsuNaGo」を含むCMSサーバの賃借契約期間が平成31年10月31日までとなっている。
- ・ここでホームページのフルモデルチェンジ（全面改修）を行うタイミングになっているが、職員がホームページの現行作成ソフト「TsuNaGo」の操作に慣れており、フルモデルチェンジ（全面改修）によるソフトの変更があった場合は、職員が再度作成スキルを習得する必要性が生じ、多くの職員が研修等を受講する必要がある。
- ・また、平成29年度に全庁的にホームページのアクセシビリティについて対応を行っており、コンテンツの最適化が図られたばかりである。
- ・CMSサーバの賃借契約期間が平成31年10月31日までであり、新しい総合計画が平成33年度から始まることを勘案すると、今後の組織の変更等も予想される中でのフルモデルチェンジ（全面改修）による更新作業は、タイミングが悪過ぎる。
- ・こうした状況下で契約更新時期を迎えるが、多額の費用負担や、職員の業務負担を伴ったホームページのフルモデルチェンジ（全面改修）が必要であるか。

2 業務改善の趣旨及び具体的内容

- 【趣旨】
現行のホームページについて検証し再評価を行い、フルモデルチェンジ（全面改修）ではなく、現行版を継続しマイナーチェンジ（一部改修）を行う方向で検討する。
併せて、「サーバの賃借方式」から「クラウド方式」に移行しコストダウンを検討する。
- 【具体的内容】
- ・他団体のホームページ等について調査、研究
 - ・関係課や専門家等の意見を聴取し、現行のホームページの検証、再評価
 - ・職員対象に実施したホームページについてのアンケート結果の検討
 - ・情報推進課等の関係課と調整
 - ・「サーバ賃借方式」、「クラウド方式」のメリット、デメリットについて比較検討
 - ・マイナーチェンジ（一部改修）への具体的な調査、検討

3 改善により期待できる効果

- 【コスト面】
- ・フルモデルチェンジ（全面改修）ではなく、現行版を継続しマイナーチェンジ（一部改修）を行うことで全体の事業費を削減
 - ・「サーバの賃借方式」から「クラウド方式」に移行しコストダウンを実現
- 【業務負担】
- ・フルモデルチェンジ（全面改修）を実施する担当職員の業務負担の軽減
 - ・フルモデルチェンジ（全面改修）によるソフト変更があった場合の、全庁職員のスキル習得のための研修受講、コンテンツ再構築等の業務負担の軽減

4 実施スケジュール（概要）

- | | |
|------|---|
| 6～8月 | <ul style="list-style-type: none">・ 庁内関係課との調整（企画経営課、財政課、情報推進課等）・ 関係課や専門家等の意見を聴取し、現行のホームページの検証、再評価・ 他団体のホームページ等について調査、研究・ 「サーバ賃借方式」、「クラウド方式」のメリット、デメリットについて比較検討・ マイナーチェンジ（一部改修）への具体的な調査、検討 |
| 7～8月 | <ul style="list-style-type: none">・ 具体的な事業費の積算・ 次年度予算要求 |
| 9～3月 | <ul style="list-style-type: none">・ 次年度以降の進め方について検討 |

5 実施結果の振り返り

- | | |
|-----|---|
| 6月～ | <ul style="list-style-type: none">・ 各課かい及び県内外の自治体へのアンケートの実施・ CMS事業者へのヒアリングとデモンストレーションの実施 |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none">・ 財政課との協議による次年度以降の予算計画の検討 |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none">・ サーバ賃借方式、クラウド方式の比較検討と次年度以降の方針とスケジュールの作成 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none">・ 庁内関係課（情報推進課・病院総務課・学校教育指導課等）との協議 |
| 2月 | <ul style="list-style-type: none">・ 各課へのヒアリング実施 |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none">・ マイナーチェンジに向けた検討内容の取りまとめ、債務負担行為の議会承認 |

今後も、令和元年11月のマイナーチェンジに向けて、コストダウンと機能改善を念頭に具体的な作業を進めてまいります。